

近畿初「電動ストレッチャー積載」高規格救急車の導入

湯浅広川消防組合消防本部では、近畿圏域の消防本部初となる電動ストレッチャーを搭載した高規格救急車を導入し、2月1日から運用を開始しました。

従来の手動によるストレッチャーに比べ、電動ストレッチャーは、電動油圧システムによりボタン操作でストレッチャーを上下出来るため、救急隊員の身体的負荷が大幅に減少します。それに伴い、男性隊員だけでなく、女性救急隊員の更なる活躍が期待できます。

また、今回導入の車両は、C-CABIN の高規格救急車で和歌山県初の整備となります。C-CABIN は、「広い、揺れない、使いやすい」を特徴としており、後部の座席に跳ね上げ式シートを採用することで車内の活動幅が拡張され、車両の衝撃を緩和するためのショックアブソーバーやスタビライザーを装着し、患者室の揺れを軽減させています。また、後部乗降口は階段式になっている等、随所にお年寄りやお子様にも優しい設計となっております。

さらに、救急車専用ブラインド型表示機を車両の後方に設置し、高輝度の LED 表示機で、「この先 事故発生中」や「救急 活動中」等の文字が表示されることにより、周囲に救急隊の様々な活動状況を発信できます。

今後、この救急車を活用することにより、隊員の故障やストレッチャーの落下事故等の防止に役立てることができると考えます。

当消防本部では、更なる地域医療のサービス向上に向け全力で取り組んで参ります。





